

公開講座活動報告

法人・団体名 大分県母性衛生学会
テーマ 「産科医療と周産期脳障害の現状」
講師 鮫島 浩（宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野）
開催年月日 平成 27 年 10 月 11 日 15 時 10 分～16 時 10 分
会場 大分市トキハ会館

講演概要

第 12 回大分県母性衛生学会学術集会特別講演のご報告
（日本母性衛生学会からの助成金運用報告）

第 12 回大分県母性衛生学会学術集会特別講演として、宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野 教授 鮫島浩先生に『産科医療と周産期脳障害の現状』と題したご講演をいただきました。

ご講演のおもな内容は、近年の周産期脳障害の現状について、最近のデータを分析した結果について丁寧な解説がありました。特に低酸素脳症事例の約 30%は常位胎盤早期剥離で、妊娠 34 週などの早い週数でも発症しており、半数は自宅で起きており、来院時の胎児心拍数モニタリングの重要性について指摘されました。超音波診断で血腫が見られない場合もあり、典型例は少ないこと、早期に徴候を発見すれば 3 分の 1 は救命できることなどを説明されました。胎児の状態を判定するには、胎児心拍数モニタリングが非常に重要であり、脳障害を早期に発見、予防するためには、入院時のモニタリングで、基線細変動の減少や消失がないかを確認することが重要で、ローリスクの正期産のうち 8%が、モニタリングで異常を示すことがあるなどを説明されました。また、脳障害となった難産 16 例について詳細なデータ分析結果の解説があり、その全例にモニタリング異常があったこと、全例が帝王切開であったことが説明されました。

さらに、周産期脳障害の予防に向けた取り組みのひとつである宮崎県の周産期医療システムについての紹介もありました。宮崎県では、産婦人科医会、産婦人科学会専門医が中心となり、地域の一次医療施設の医師、助産師、看護師を対象にした胎児心拍数モニタリングの教育・研修の取り組みを行っていることについて紹介がありました。宮崎

県の周産期医療システム（一次医療施設の分娩時胎児心拍数モニタリングを、上位の二次・三次医療施設で同時に観察できるシステム）についての紹介もあり、導入後6か月のうち28例胎児心拍の異常が認められ、早期に対応できたことが示されました。今後システムを機能していくためには、モニタリングの解釈ができ、産科管理が行われ、新生児蘇生ができるという三位一体でなければ、周産期脳障害を減少させることはできないため、今後も教育研修は必要であると結ばれました。

質疑応答では、産科医療保障制度の現状と基準の改定、今後の運用について等の討論が行われ、演者からは専門的な見地から回答をいただきました。全体を通じて、会員にとって大変有意義な特別講演となりました。

きなくなっているという。配電盤の施錠状況を確認するなど、原因を調べる。

「産科医療の現状」語る
おぎゃー 献金記念講演

障害児のための施設や研究を支援する「おぎゃー 献金」の推進月間記念講演会が11日、大分市のトキハ会館であった。県産婦人科医会と県母性衛生学会が推進月間の10月に毎年開いている。

医師や看護師、助産師ら約120人が参加。宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座の鮫島浩教授（産婦人科）が「産科医療と周産期脳障害の現状」と題して講演し、新生児の脳性まひを減らすための取り組みとして胎児の心拍数モニタリングの重要性を強調した。

記念講演に合わせて、献金に協力した医療施設など計14団体を表彰した。献金は医療関係者の他、広く一般から寄せられている。

講演する鮫島浩教授



2015年10月14日 大分合同新聞（夕刊）掲載記事